

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	令和7年度第1回津市社会教育委員会
2. 開催日時	令和7年7月7日（月） 午前10時から午前11時30分まで
3. 開催場所	津市中央公民館 会議室
4. 出席した者の氏名	（社会教育委員） 長井委員、赤塚委員、綺堂委員、辻本委員、古市委員、前田委員、松田委員、水平委員、山野委員、井澤委員、伊東委員、加納委員、長島委員、樋口委員 （事務局） 教育長 森昌彦 教育総務部長 家城覚 教育総務部次長 長脇弘幸 生涯学習課生涯学習・公民館事業担当副参事 （兼）中央公民館長 木田実 生涯学習課長 江角武 生涯学習課調整・生涯学習・公民館事業担当主幹（併）男女共同参画室男女共同参画担当主幹 山川晶子 生涯学習課生涯学習公民館事業担当主事 上田奈那子
5. 内容	(1) あいさつ (2) 協議事項 ・令和6年度第2回社会教育委員会 主な発言内容まとめについて ・これからの時代に即した社会教育活動について ・次回の会議に向けて (3) その他
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	なし
8. 担当	教育委員会事務局教育総務部生涯学習課 生涯学習・公民館事業担当 電話番号 059-229-3256 E-mail 229-3248@city.tsu.lg.jp

議事の内容 下記のとおり

事務局（副参事）

失礼いたします。お時間になりましたので始めさせていただきます。本日は、津市社会教育委員会の開催をお願いさせていただきましたところ、ご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度より生涯学習課生涯学習・公民館事業担当副参事（兼）中央公民館長となりました木田と申します。よろしくお願いいたします。それでは、委員会の開催に先立ちまして、森教育長よりご挨拶申し上げます。

森教育長

皆さん、おはようございます。本当に暑い日が続いてます。そのような中、令和7年度第1回社会教育委員会開催にあたりまして、ご参集を賜りまして、ありがとうございます。

人口減少が、地域によって増えているところもありますが、その中で何ができるのか考えた時に、社会教育委員も含めて、地域の担い手を育てることが大事です。それは子どもも交えて、地域に誇りを持ち、世の中に役立ち、社会に貢献したいとか、何をおいても、生涯学習として、力を借りるということはもちろんですが、それだけでもないということを思っております。社会全体で、子どもたちが、その気にさせるような取組を仕掛けていくことも必要であると強く思っています。

先日、6月30日に東観中学校で体育祭が行われました。その話をしようと思います。外はものすごい気温でしたが、安濃体育館を借りて体育祭をやりました。取組段階について話すと、実は校

長先生や地域コーディネーターの方が、熱中症に対して不安であるということでしたが、今年から津市の体育館に空調が整いました。そのようなタイミングもあるので、体育館を借りてやりたいという相談を受けました。その時に子どもたちはどのように思っているのかと話をさせてもらったところ、子どもたちにはまだ話していないと言われました。そこが大事ではないかという話をしまして、そこから、先生方や地域の方が子どもに火をつけました。火をつけたとはどういうことかというところ、体育祭についてどう思うか子どもたちに問いかけた際に、「それいいですね、先生」と生徒会がやる気になり、そこで子どもたちでしてみないかということになりました。子どもたちは「そんなこと僕たちがやっていいんですか」って言いつつも、火がついて、様々なことが初めてなので、種目など幅広く考え、先生と地域の方も関わって、支えていただきました。

ただ、体育館は指定管理となっており、減免ができません。計画的であればお金が出ますが、なかなか出ないので、お金が結構掛かります。それを子どもたちに伝え、「それも自分たちでやる」と、募金活動を始めました。議員さんを含めた地域から「子どもに何をさせているのか。お金を出してあげてほしい」と苦情が随分ありましたが、逆に「何言っているんですか」と言いました。「全部子どもたちが今やろうとしている取組に対して、子どもたちがそのような気持ちになってやろうとしてることが大事ではないのか」と伝えました。地域の方にもたくさんご協力いただき、来年も開催できるほどのお金を集め、そして6月30日を迎えました。招待状もいただき、見に行きました。何が良かったかというところ、子どもたちや先生方の顔です。そして、地域で玉入れ大会をしましたが、地域の方も200人以上見ていたのではないかと思います。もの凄く一生懸命に地域として団結し、終わった時には、子ども、先生方、地域の方が本当に良い顔をしていました。終了後、「さあ来年、どこを変えていこう」、「もっとこれ改良点あるな」というような言葉も、子どもから飛び交ったということが素晴らしい取組になったと思います。今後、どのようにしていくかということはあるかと思いますが、要は子どもたちの力を信じ、任せて、そして達成感を持ってやりきるという経験が、色々なことに繋がっていきます。

そして、1番紹介したかったことにつきましては、お礼状についてです。私だけではなく保護者、地域の方々に届きました。一部読みますと、「もう史上最高の体育祭でした」と書いてありました。文章があまりにも適切で、先生方が手をつけたのか聞いたところ、一切手をつけていないということでした。「これは子どもが本当に考えた文章なのか」と驚きました。最後の4行が本当に感動したので、そこだけ読みます。「これから僕たちは勉強に励むとともに、学校行事に楽しんで取り組み、地域の方に元気に挨拶するなど、学校だけでなく地域でもひとときわ輝く存在になれるよう、日々成長していきます。」と書いてありました。これを聞いて鳥肌が立ちましたが、これを言わせたというか、子どもたちに経験させたという取組であり、素晴らしいことだと思います。これが、生徒会長の直筆の挨拶文ですが、学校や地域コーディネーター、学校運営協議会、様々な方が関わってもらい、ここまで来ましたが、他の地域でも、1つの指針や参考になるのではないかと思います。今、地域と繋がり、子どもが関わることで、地域のおじいちゃん、おばあちゃんも輝きます。募金を持ってこられたおじいちゃん、おばあちゃんにお孫さんがみえるのか聞くと「いいえ、いません。こうやって子どもが動いていることが本当に嬉しかったので来ました」と言いました。子どもは地域を元気にする力もあると思うので、そのようなことをぜひ取り入れながら、今後もお力添えいただけるとありがたいと思います。凄く嬉しかったため、皆さんにご紹介をさせていただきました。本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局（副参事）

会議の開催に先立ちまして、皆様にご紹介がございます。社会教育委員としてご活躍いただきました、津市小中学校長会会長の青木利成委員が退職され、後任として長井孝子様が委員となりました。一言、ご挨拶をよろしくお願いいたします。

長井委員

失礼いたします。先ほどご紹介いただいたように、青木会長の後任を受けまして、引き続き、社会教育委員をさせていただくことになりました。日頃は、子どもたちや学校を支えていただきありがとうございます。またよろしくお願いいたします。

事務局（副参事）

ありがとうございました。本日の会議は、11時30分までの1時間半を予定しており、会議終了後は委員の皆様同士で交流していただくなど、自由に情報交換をしていただく時間を設けさせていただいています。

本日の出席者は14名になっております。津市社会教育委員会運営規則第4条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

ここからは、運営規則第3条第3項により、委員長が会議の議長となると規定されておりますので、井澤委員長、よろしくお願いいたします。

井澤委員長

おはようございます。議事の進行につきましては、ご協力よろしくお願いいたします。本会議は、津市情報公開条例第23項に基づきまして、公開とさせていただきます。議事録は、津市のホームページでも公開されていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事項書に基づいて進めさせていただきます。事項書をご覧ください。1番目の項目にありますように、「令和6年度第2回社会教育委員会主な発言内容まとめ」ということで、前回、津市の課題として考えていることを示していただきました。前は「新型コロナが社会教育活動にもたらした影響と対応について」というテーマでご議論いただきましたが、社会教育を進めるにあたり、課題がまだまだ多い状況と、それから、新たなニーズが生まれて、繋がり方が変わってきました。皆さん、ホームページをご覧くださいと思いますでしょうか。ご理解いただいているかと思います。そこで、今回は、前回の会議を踏まえまして、「これからの時代に即した社会教育活動について」ということで、協議していきたいと思います。

前回の復習も兼ねまして、資料1の、「令和6年度第2回社会教育委員会主な発言内容まとめ」について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（副参事）

はい。「令和6年度第2回社会教育委員会主な発言内容まとめ」について説明させていただきます。先ほど井澤委員長から説明がありましたが、時代の変化や影響を踏まえながら、これからの時代に即した社会教育を進めていきたいと考えております。まずは、お手元の資料1をご覧ください。前回の会議内容を簡単に整理させていただきました。例えば、公民館に関して、3つご紹介いたします。1つ目の、利用したことがない人たちに利用してみたいと思わせるような仕掛けが必要ということにつきましては、これからの時代に即し、利用したことがない人たちに対して、どのような工夫をしていくかが大事ということでした。2つ目の、一度引きこもってしまった方が外に出ることは難しいということにつきましては、新たにご利用いただく方を公民館で獲得しているという状況や、3年間外出しなかったということで、外へ出なくなってしまったという状況についてお話いただきました。最後に、リーダーも高齢化している中で、リーダーをどう育てるかというご意見がありました。リーダーも高齢の方が多ことから、若者をどう捉えていくかに対しての課題解決が必要という話がありました。

公民館以外について、同じように3つご紹介させていただきます。1つ目は、学童の保護者同士の関わりがなくなったり、隣の人が分からない状態であり、親同士のつながり、学校や先生との関わりを増やすことで、地域でしていかないといけない活動につながっていくのではないかとご意見をいただきました。PTAの活動が少なくなり、地域に子ども会の活動もなく、学童も行事はあっても子どもが参加するだけで保護者は参加しない状況から、親同士の繋がりが減ってきており、隣の人が分からない状況、状態であるという話がありました。そのため、親同士がつながるような活動を新たにすることによって、地域で行っていかねばいけない活動にもつながっていくのではないかと課題が見つかりました。一方で、2つ目の何もかもコロナ以前のように戻すのがいいのかということ、そうでもないという話がありました。この機会に改善したり、任せ方を見つめ直すことも当然あっていいのではないかとご意見をいただきました。そして3つ目の「時代が変わり、考え方やノウハウを変えることがあっていい」というご意見をいただきました。

公民館と公民館以外を前回の会議内容から区別しましたが、両者の共通することもちろんあると思いますけども、全体的に議論を深めていければと思います。

これらの取り上げた項目から、新しい社会状況やニーズに即した社会教育活動を行っていく必要があると分かります。例えば、以前のように戻す必要があるものもあれば、ないものもあります。オ

ンライン会議の ZOOM の活用など、新しいツールが広まってきていますが、対面に限らず、人との関わり方が多様化してきております。今回は、公民館に限らず、幅広い範囲で新たな社会教育活動についてご協議いただきたいと考えております。そして、今後の会議で掘り下げていただき、教育委員会で課題等を把握していけたらと思っております。以上です。

井澤委員長

ありがとうございました。2つ目の項目の「これからの時代に即した社会教育活動について」という項目をみたいと思います。

社会教育活動はどういうことが考えられるかということ、人づくり、繋がりづくり、地域づくりの3つの目標があるということで、皆さんイメージされてると思いますが、この3つを目指して、これからの新たな時代に即した社会教育活動を行っていくために、今どのような状況の中で私たちが社会教育委員としてどのようなことができるのか。そして津市は、どのようなことができるのかということを考えていきたいと思います。

事務局からご紹介いただきましたけども、前のことを少し思い出しながら、皆さんご意見いただければと思います。

以前のいわゆる課題や問題に着目するだけではなくて、これからの、どうあったらいいのかというところに議論を進めていきたいと思っています。よろしくお願いします。どなたかこれからの時代に即して、現状を含め、自分たちの団体の中ではこういう取組を始めたというようなこと等のご紹介をお願いします。いかがでしょうか。

伊東委員

失礼します。高田短期大学講師の伊東でございます。よろしくお願いします。

こちらの内容をまとめまして、私の研究も含めて見解を少し申し上げますと、公民館という点に絞りました。公民館を公民館らしいというか、昔からあるイメージのままでは、おそらく我々の世代以外の者からすると、利用者が増えることは見込みづらいと思います。それはやはり、スターバックスやマクドナルドに代表されるような、明るい雰囲気というのが感じづらいということがあります。

一方で、家庭と職場ないし学校では、まだ人間関係の弊害がありまして、離れたサードプレイスと言われるような場所に関してのニーズというのは着実になっているということが昨今の情勢です。そこで、公民館がサードプレイスとして機能すれば人が集まるチャンスがあるかと考えます。ただ、そのチャンスをものにするにはといったところで、先ほど申し上げましたとおり、雰囲気というのもあります。スターバックスだったらという点で言いますと、軽く飲食ができます。そこを規制としてどのように弱め、緩和していくか、また、提供可能なかというところですね。家にいると仕事ができない、職場にいると仕事ができないということに対し、どこで仕事をするかという時に、やはり利害関係があります。本来、社会教育という繋がりを作りまして、関係があるところですが、ただ一方で、あまり干渉されたくないという方もいます。そして、干渉されない場所としてのサードプレイスと考えた時に、ただ人が集まってみるような仕掛けということはあるかと考えます。そうしますと、特にその地域に住んでいる方が集まってきますので、言葉を返さないにしても、面識は少しずつ出ていきます。そのようなところを期待する必要もあるかと考えます。

また、どのように育てるかといった時に、やはり上下関係に見られます。つまり、若い人とは指導される側の立場であると言った時に、先ほど教育長様がおっしゃったように、若い人も主権者の1人であり、それを具現化するというのを望んでいるはずですね。ただ、その時に、自分たちはやはり社会のヒエラルキーの中で言うことを聞かないといけないということが見えます。引いてしまうという姿勢が、昨今の学生の就職先での状況を見て凄く感じられます。退職代行サービスを使う卒業生もおります。入る時には期待値のままで入りますけれども、入った時にやはり虐げられている存在だということに気づいたら、引くのがものすごく早いです。

ですから、育てるというよりは任せるということが大事です。今までは育てる人たちという側が、育てるのではなく、任せるということになります。心理的な土台作りが凄く重要だと思います。地域社会の一種の組織体ですので、その中で自分が、活躍できていると実感を持つためには、やはり言われたことをやっていただければ十分ではないということを感じました。そこが具現化できるような施策があれば、ぜひ考えていきたいと思っています。長々と失礼しました。

伊澤委員長

教育長さんも言われてたように、やはり自分が参加ではなく参画し、活躍できる場が与えられることによって成長していくということが、とても大切なキーワードだと思います。

そして、そのような点で、本当に子どもたちが中心にいるということが大切なところではないかと思いますが、いかがでしょうか。

辻本委員

前回の会議では、公民館の重要性がテーマになっていました。生涯学習の実践の場、やはり公民館が中心になると思います。その中で、将来を考えると、子どもたちを1人にせず、皆さんで育てていくことができるのかということが1つです。

それから、高齢者の問題です。高齢者はどんどん増えています。そのような状況で、社会に参画できるような環境をどのように作り、高齢者が参画できるような場を私たちが作ったらいいいのかということを考えたいと思います。これも社会の1つのテーマとしてです。

そのために地域活動の活性化と、それが地域に繋がっていくということを考える必要があります。以前、数年前に実施した公民館の調査資料をいただきました。確認していただければ公民館の取組はよく分かっていただけたと思います。私は、公民館は今や多様な世代の文化交流の場でも、子どもから高齢者、幅広い年齢層が集まる場でないと、公民館活動もその先になるだろうというように考え、それから世代間の異なる交流の場を、どのように、どういうテーマを持って我々が共有していくのかということを考えるということと、文化の違う外国人も最近多くなっています。文化の違う方との交流により、何かを見出し、考えていく必要があります。

そして、公民館のコミュニティデザインが必要かと思っています。経験したことを申しますと、地域資源を発掘すべきです。各地域にある資源を発掘するということです。例えば文化、歴史、自然、そのようなものに目を向けたいと思っています。高齢者の場合、地域で音楽やアートをされている方がいます。そのような活動をしている団体などを資源として見出していき、担い手を作り、キーパーソンとしてお願いし、コーディネーターをマッチングした上で実施していきます。例の1つとして、7月13日に、「中央公民館を遊ぼう」というイベントがあります。これは、年に1回であり、中央公民館で実施しています。当日、参加してくれる団体が12団体で、コロナ以前とコロナの後を比べると、コロナ以前は、大体、800人ぐらいの子どもたちが、参加してくださいました。コロナ後というのが、300人であり、最近は600人ほどに増えてきているということで、子どもだけ集まってきています。対象は、幼稚園から小学校6年生を対象にしました。そして、おじいちゃん、おばあちゃん、両親も一緒に参加してくれます。高齢者、おじいちゃん、おばあちゃんたちが、子どもたちと一緒に遊んで、その中で学んでいただけます。それから三重大学の、理科の先生たちを育てる学科の方々が昔の遊びや工作など、様々な遊びの中で学ぶこと、そのように現在、中央公民館では実施しています。年に1回でも活性化に繋がると思っております。やはり、とにかく手の届くところから何かを探してやれば良いと思います。

井澤委員長

ありがとうございました。学童保育や社会教育と直接的に似つかないこともあるかと思いますが、若い世代の子どもたちを中心にした取組をたくさんしていただいているので、そこから見て、社会教育、これから子どもたち、あるいは保護者も含めて、こういう活動があると良いと、もしよろしければ教えていただきたいと思います。

水平委員

立場的には今、学童保育の連絡協議会事務局長として参加させてもらっていますが、地元で子ども会の活動もしていますし、PTAの役員もしてまして、現役の保護者です。まず、公民館から言いますと、先ほど伊東先生がおっしゃったように、公民館に対するイメージが若者の中では皆さんが行く場所というイメージではありません。

例えば児童館は、子どもが行く場所とはっきりしてしまっていて、児童館であれば子どもが遊びに行くというイメージがつきますが、若者が児童館に行っても良いのかと言われると、児童館は子どもしか入れないとか、高校生や大学生のお兄ちゃんがいたら遊べないので、別の場所に移ってほしい

ということが、実際にこのセンターパレスに話があった時代もありました。居場所として中高生が面白そうということで来られても、実際小学生や幼児が来ると怖がるので、別のところに行ってもらえないかと言われてしまうようなことも過去にあったように聞いています。そういう意味では、若者が集まる場所としての公民館の認知としては凄く低いと思います。前回は予約の関係などを、公民館へ来て受付しないといけないということや、時間内でしかできないなど、そういったことも含め、実際に利用したいと思ってる若い人が知っているかと言われると、なかなか知らないということがあります。

公民館のイメージについて、発信していく必要がありますので、場所が使える、行ったら何かできる、面白そう、というイメージができれば、もっと足が向くと思いますが、それはすぐできることではないので、難しいと思います。先ほどから活動の中で紹介されていたように、高齢者の方は高齢者で講座をすとか、若い人が発信をして、若い方が集まる講座をすというのはもちろんそれで良いと思いますが、繋がらないと思います。公民館は、それぞれの講座がたくさんある中で、年齢や趣味がバラバラですが、文化祭とか公民館で遊ぼうのような取組をやることで横のつながりができるというのは取組としてあると思います。

活動している中で思うこととして、子ども会活動は、地域ではなくなっており、非常に残念ではありますが、やはり子どもを中心とした活動というのは、子どもも参加しますし、その兄弟も参加する。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも来るという意味では、子どもを中心にする活動は1番人が集まりやすいです。集めることが目的ではないと思いますが、縦のつながり的には、公民館で遊ぼうでも、幼児から小学生を対象にすることで、付き添いのおじいちゃん、おばあちゃんもいますし、お父さん、お母さんもいるということですので、そのようなことをたくさんすると良いと思います。

新町地区のことですが、コロナ以前から新町小学校では、自治会が主催でお祭りを実施していました。社協さんも加わっていました。先ほど言われたように自治会も高齢化しています。もう馬力がありません。コロナが明け、いろいろな活動を復活させましたが、高齢者は怖さを感じ参加してくれません。人がいるところに行きたくない、お祭りを動かすのは難しいという話が出ていましたが、地域の団体などに任せたらどうかという話が出て、現在は、神社の青年会、子ども会、体育振興会の若い役員の方たちを中心に実行委員会方式でお祭りをしようとなっております。そこには若い方がいるため、PTA、子ども会、学童も手伝うということで、若い方たちがするのであれば、皆さんで手伝おうという形でお祭りが開催されました。そのお祭りも、昔は自分たちで実施していましたが、消防や保険が厳しく、難しいので、プロにしてもらうことになり、キッチンカーを呼んでいます。それ以外のイベントで、販売したり、スーパーボールすくいのようなものは、誰でもできるので、食品を伴うものを子ども会やPTAが行い、真ん中で踊ったりするようなお祭りに復活し、今年で2回目を迎えます。良かったこととして、高齢者はノウハウがあり、今までしていたことを教えてもらい、若い人からはアイデアが出てきました。消防団の報酬が難しいとなかなか集まってくれないということで、放水のショーをやりたいと意見が出ました。少しでも消防団の活動を見てもらいたいということで、お祭りに携わったり、皆さんで地域を起こすことはできると思います。それを、発信は誰がするのかということと、どのように募集するかであると思います。そのように新町地区では、進めております。

辻本委員

教えてほしいことがあります。児童館の話も出ましたが、中高校生が来ると少しそぐわないというお話でしたけども、ある地区では、中高校生にその子どもたちと遊ばせる、お兄ちゃんが一緒になって子どもたちを遊ばせるということを主体にしている児童館があるわけです。これ、仙台市のお話です。高校生や中学生が、小学生や幼稚園の子どもたちに、遊びとして過ごしています。そういうことは考えられないのでしょうか。

水平委員

児童館の者ではないので、児童館での現状は分かりませんが、実際にはそのように利用者の中で、中学生、高校生も遊び場所ということで来ていましたが、幼児から見ると少し怖いと言われたため、別の場所へ出てほしいという過去があるという例を出しました。現在の公民館、児童館がどのようになっているかは関係者ではないので分かりません。

井澤委員長

児童館自体は18歳まで使えると思います。ただ、利用者のご意見から、安全性ということに対して、その時間帯という状況が配慮としてあるのだと思います。

他に、様々な場所で活躍されている樋口委員、いかがでしょうか。

樋口委員

冒頭、教育長さんから安濃町の東観中学校のことをご紹介されていました。私も再任用で、東観中学校で初任者の指導を行っております。ただ、毎日行っているわけではなく、会議等に出ているわけではないので、あまり責任があることは言えませんが、やはり生徒が自らが動くようになっていきます。

例えば、体育館の利用や寄付については、子どもたちが地元の新聞販売店へお願いに行き、チラシを入れ込み、行進練習をしていました。多少大人の方は関わっていますが、地域を子どもたちが巻き込んでいました。学校の皆さんは、体育祭を作り上げてくれています。

他にも小学校区の行事に関して、ボランティアで来てくださいということ以外に、企画や運営から関わってほしいというオーダーがきました。子ども会のドッジボール大会に関しては、企画運営からオーダーが来て、そこへ何人かが行き、一緒に関わらせてもらうということを経験しています。まさにそのような経験が、学校だよりも、地域創生の担い手づくりという言葉を盛んにしていますが、やはり将来にわたり繋がっているのではないかと思います。学校教育、社会教育が連携をし、伊東先生もおっしゃるように、若い人が自分たちも具現化したいと思っている部分が、このように経験を積むことでできていると思っています。

井澤委員長

様々な団体のフォローをされている古市さん。今、若い世代の方たちの取組もありますが、いかがでしょうか。

古市委員

私もこの公民館活動に取り組んでいます。公民館が同じようなことをしていますね。やはり特色のある公民館づくりとして例があります。

私が一身田にいた時は、人権と福祉の公民館ということで取り組み、新しい講座を作りました。それが仕掛けですね。例えば子育て教室です。高田幼稚園に紙を持って行き、始めたいということではなく、お願いしたいということで、お母さんと2時間程話しました。また、寿大学があります。何人かの、参加者を呼びかけて、新しい講座を作っていました。1つのグループで作っているので、そこへなかなか新しい人が入ってこれません。そこで、調整し、また違うグループで講座を作らないといけません。だんだん年齢が上がり、高齢化していきます。そのようなことで、やはり公民館も幅広く考えながら運営していかないとはいけません。館長さんの考え方が非常に大きいと思います。

それからもう1つ、教育長さんが、生徒の手紙を読まれました。非常に素晴らしいことです。しかし、その体育会に参加できていない不登校の子どももいたのではないかと思います。その点に目が向けられるような存在になっているかということも、大事なことです。SDGsの取組が各所で出されています。その基本的な考え方として、この世から誰1人として取り戻さない、落ちこぼれを作らないということは、基本的な反応になっているわけです。このようなことを踏まえながら、様々な活動に取り組み、日々活動しながら学んでいます。

井澤委員長

様々な方から仕掛けていくことが大事かと思います。それから、当事者、参画する側に関わって活かすにはどのようにしたら良いかということが1つのキーワードになっていくと思うのですが、真ん中に子どもを置いていくというお話が出ていたと思います。山野さん、いかがでしょうか。

山野委員

やはり、居場所が、よく地域等で聞くキーワードの1つであると思います。子どもの居場所というと、子どもだけであるため、地域の中の居場所というところに持ってきますと、子育て世代の方

も、年代の方の居場所もあると思います。

以前、公民館の活動に参加した時には、70代前後の方々のサークルでレクリエーションをし、様々な学校で担当させてもらいました。元気な方は、楽しみにして来てもらった場所もありましたし、平均年齢80代となると、動いたり考えたりということについて、分かる人と分からない人が出てきました。分からないのもう行かないとなったため、メインはお喋りということをしました。参加者がお喋りをし、その地域の共通話題などを提供し、そして参加者自体が教え合っていました。そのような会話であると、皆さんが共感を示すような言葉がたくさん飛び交い、会話の継続が保たれました。白山の方で、地域の人たちが自主的に、地域の人たちを集め、お喋りの時間を毎日2時間ほど取っているとおっしゃっていました。1人だと不安なことが多いですが、他の人達とお話をするにより、不安の解消になっていると思います。このようなことを、このメンバーでできていくと良いと思いました。

井澤委員長

様々な人たちの居場所が1つのキーワードになると思います。建物があることが場所では必ずしも無いと思いますが、この空間が居心地が良く、また行ってみたいと思わせる、行こうかなと思わせる場所づくりが大切だと思います。そこをどう担い、動機づけていくか、どのような仕掛け人が必要になってくるのか考える必要があります。

レクリエーションをきっかけとして、松田さん、いかがでしょうか。

松田委員

昨年から公民館活動のお手伝いをさせてもらっています。1番感じているのは、9時半から11時や、昼から2時間ほどという講座をしているということです。そうすると、おそらく子育て世代にとっては絶対に出られないと思います。私も、今は退職していますが、出かけようと思っても、ほとんどが9時から5時の世界なので、あまり出られないと思います。ネットで見ても、やはり5時以降にお母さんとお父さんが子どもと一緒に出来るようなところは、ほぼありません。

水平さんが言われたように、やはり子どもを集めると大人が集まります。実際にスポーツレクシオン協会で運動会をしました。最初募集期間で、100人ほど来たら良いとしていたところ、50人ほどしか来ませんでした。今年は土曜日にしまして、子どもたちが結構来てくれました。お父さんたちも当然来るので、結局最終的には目標100人ほど集まり、運動会ができたという事例があります。やはり子どもたちを巻き込むのが1番早いと思います。ただ、やはり時間がある私世代しか出てきてもらえないということは本当のところでは、車で運転していくには少し遠く、同じ町内の買い物だったら行けるところが、隣の市は行けないという話をたくさん聞いています。そのような考えの人を集めるのは非常に難しくなっていると感じています。

井澤委員長

生活時間帯について、高齢者には、朝6時半から8時ぐらいまで体操教室を行ったらどうかと思っています。若い人たちには午後6時以降にスポーツや交流の場を設定するなど、皆さんの動きが多様化していますし、世代によって、やはり動きが違います。かつては土日お休みの方が多かったけども、今はお仕事の都合で皆さん必ずしも土日お休みではなく、休暇の取り方など、変わってきています。そのようなところで、公民館に焦点を当てますと、時間帯や市民の方たちの生活、世代間の行動のずれということが現実的にあります。

そのようなところを含めて、新たな動きをしていかないと、社会教育活動に繋がっていかないのではないかと思います。今、公民館のお話がたくさん出ていますので、赤塚さん、いかがでしょうか。

赤塚委員

中央公民館のことですが、様々な講座をしていただいて、なおかつ他の施設も利用しないといけないということで、公民館以外でも、出前講座に対する講座を設けてもらっています。お勉強に来る方は、大体、退職された方が多いです。様々な講座がありますが、趣味の世界でも、完全に家に入ってみえる奥さん方が来ているのは見ますが、やはり、自分で趣味の世界を進めていくという必要

があります。自主講座については、公民館から、案内が冊子として届いていましたが、今年からはホームページを見るよう案内がありました。公民館の窓口に来てもらい、質問があればお答えするという募集方法に変わったこともあるので、家で見て、関心を持つ方が少なくなりました。自分からネットを見たり、公民館に足を運んでどのような取組があるのかを確認して、それからの取組になるので、今年は募集が減ったのではないかと考えています。それから、自主講座は、自分で教室を持ち、運営をします。そこで新規の方が入ってくることは難しいので、新らしく立ち上げる講座でないと集まりにくいと思います。

私たちは、子どもの時に子ども会で活動していました。6年経つと卒業なので、それから、親が集まる場所が無くなると、地域の支援がなくなります。私の住んでいるところは小学生がおりません。私は生まれてから、ずっと地域の皆さんに分かってもらっていますが、引っ越してきた方はなかなか難しいです。

それと、公民館を外れますが、民生委員をしている関係もあります。活動をした際に、敬和小学校から、先生が1人や2人ではダメということで、地域へ声をかけました。やはり高齢者も、使い方であると思います。学校から声をかければ、おじいちゃん、おばあちゃんは喜んで行きます。やはりそのように取り組むと、地域の繋がりが保てると思います。

井澤委員長

ありがとうございました。なかなか地域を繋げていくということは難しいです。加納先生はいかがでしょう。

加納委員

元々は大学に来る前、小学校の教員をしておりまして、今は、大学に勤めています。皆さんの話を聞かせていただきまして、社会的な動きと繋がるために、中学生をターゲットにできないかと思いました。中学校の部活動の地域移行ということが、今1つの大きな話題になっていまして、これまでは、学校の中でスポーツや文化活動の部活動をしていたということで、先生方の負担がかなり大きい状態となっております。そのため、社会教育の方に移行していくということが国の動きになっています。市町によっては、令和8年度の10月から、土日の部活動を廃止するという動きになっています。そのような時に、中学生が活躍する場を、どのように社会教育の中で保障していくかということが、かなりの重要になってきているのではと思います。

例えば、6年生から中学校に上がる家庭の子どもが小学校で野球していたとします。中学校で部活をするとなると、あまり外には目を向けずに、部活があるからということで中学校に上がってきます。現在、部活がなくなるという情報を、キャッチしている場合は、外にどのような場所があるかと探している家庭がかなり増えてきていると思います。しかし反対に、社会の中で、受け皿になる団体が作られてきているという動きが実際にあります。先ほど皆さんのお話にあった、今から何をするかということについて、探すところから始めていくという、そのようなことも部活探しが例になるのではないかと思います。なので、部活の受け皿という言い方はよくないかもしれませんが、中学生が活躍できる場ということは、方向としてはあるのではないかと思います。

高校生の中でも探求的な活動というのが出されています。総合学習の中でどのように外に出ていき、社会と繋がって活動ができるかということも、高校生の中でもかなり広がってきています。高校生の場合は授業として位置づけていますし、中学生には、部活は皆がやらないといけないわけではありませんが、保護者の方からすると、ずっと家にいるより、社会と繋がってほしいという思いはかなり強いので、そのような時に、身近な地域の子もだと、身近な場所と繋がることにより、まずは参加者として参加する、そこから企画するというように、地域の方と繋がること自体を部活動にするというようなことも方向性としてはあり得るのではないかと思います。

辻本委員長

ありがとうございます。長島さんはいかがでしょう。

長島委員

三重大学と三重短期大学で社会教育、生涯学習を講義していますが、課題を解決するためにどのようなことをしたら良いのかという授業をしています。三重大学や三重短期大学でも津市に対する

課題をたくさんあげています。それをどのように解決していくのかという中で、今子どもたちが少なくなってきた、部活動あるいは文化活動、例えばラグビーのチームすら作ることもできない、そういったものの受け皿がなくなってきたことが現実にあります。それ以前に地域が総合型スポーツクラブなど、果たして受け皿になっているのかどうか。そしてその人たちが参画できて、自分たちが幸せになるために、自分たちで行動できる仕掛けを作っていくという方向が大学生の話の中ではまとまっており、なるほどと関心しながら、力になりたいと思っています。

井澤委員長

今お話を伺っていると、やはり真ん中に子どもがいるという視点で、皆さん同じ考えをお持ちです。様々な世代の人たちが交流できる場所を提案できないと、前へ進んでいきません。そのような機会を社会教育委員さんが作っていき、当然、当事者や様々な世代の人たちの意見を聞きながら、機会と場を作り、それが居場所になっていくのかもしれない。

長井先生は、地域学校協働活動という部分で、たくさんの声を聞く機会があり、美里は小中一貫校で、広い地域でもあるかと思います。事例やうまくいっていることをご紹介いただけるとありがたいです。

長井委員

確かに地域の方が、学校にもたくさん来ていただいて、協力していただくことが多いです。コロナがあり、学校に集まれる時期がなかった時に、保護者同士の繋がりというのはどうしても切れた時期がありました。小さい学校ですが、たくさんの保育園から来ていただくので、保護者同士お顔が分からないということもたくさんありました。学校の中で繋がっていくのは大事だと思いますが、お話を聞かせていただき、本当に子どもたちは無限に、東観中さんの話も聞かせていただいて、自分たちで主体的に動く力は凄いのと思っています。ただ、こちらがどこまで引き出せているのかを、反省として聞かせていただいていたいました。

学校運営協議会の方といろいろお話する中で、やはり、地域の課題が出されています。高齢の方もたくさんいる中で、学校運営協議会の方で、校長が集まり、研修会がある時に、地域の取組を聞かせていただき、学校運営協議会や地域の方は、子どもと接することに対して、やりがいを持ち、楽しみにしていただいております。直接子どもたちと喋りたいというお声もあるので、やはり、学校運営協議会の方と、子どもたちと一緒に話す機会も持ちながら、地域の課題も一緒に出していただき、子どもたちがどうしていくと良いかを一緒に考えていける場を持っていけると良いと思っています。

地域で、防災やお祭りで子どもと一緒に関わっていただいている学校について聞かせていただく中で、参加をする場をたくさんいただきますが、やはり最初から参画していく場を共に考えていくことが大事ということを、改めて考えさせていただきました。

井澤委員長

地域学校協働活動について、本来の活動は元々PTAの活動であったと思っています。PTAのOBである前田さん、いかがでしょうか。

前田副委員長

防災については、トカラ列島の方が騒がしくありますが、トカラの子どもはどのような気分かと考えると、夜も寝れない状況かと思います。津西地区の自治会では、三重県の防災の人から購入していただき、その時に、大きな震災が来たら消防車や救急車、行政は来てくれないという話になりました。頼りになるのは、近所の、まさしく郷土であるということで納得して帰っていきましたが、やはり津西地区は、多様性が凄く豊富で、保護者の意識はバラバラで、周りを統一するということは至難の技だと思います。ただ、そのようなときに子どもたちの力、まさしく中学生は、もう下手な我々よりも絶対に凄い力を発揮してくれると思います。

PTAの時に、各中学校の避難訓練で、地域婦人会や老人会の方が集まり、消火の仕方や緊急の炊き出しなどをしました。やはり中学生にもなると、本当によく動きます。今度もしそのような訓練があったら、あそこのおじいちゃん、おばあちゃんは声をかけるというようなところまでいけるぐらいにしたいと思っています。コロナで一旦潰れてしまい、行事が復活するということを聞いているの

で、その時に、企画の段階から手を挙げてくれる、自分の子どもたちと同じぐらいの世代の、30代から50代手前ぐらいの保護者がありがたいです。

我々では考えつかない、連絡方法としては、回覧の代わりにQRコードを回し、自分の家でスマホで申し込みができるような方法があり、防災訓練などの動画を見ることができます。そのようなことをおじいちゃん、おばあちゃんにも分かってもらいたいです。難しい話は中学生に任せていくということが凄く大事であり、社会教育委員としてそのような活動に関わることができれば良いと思います。

綺堂委員

やはり子どもたちが自分で動きたいと思える場所は、大人の目があまりなく、隣であれこれ言われないうところであり、公民館がサードプレイスとして、学校以外のところで機能するということで、スタバのように明るさが欲しかったり、夕食ができたらいということもあるのですが、多分子どもたちはお金がかからず友達と一緒にいられて居心地のいい場所だったからどこでも良いと思います。例えばアスト津や駅周辺に学生服を着た子どもたちが来ていると思いますが、埼玉県浦和市の目の前にあるパルコという商業施設では、オープンスペースがあり、学生が集まり、勉強する場所として、取り合いになっています。やはり、クーラーも入っており、学校が終わった後に、友達とゆったりと喋りながらも宿題ができるということから、行きやすい場所となっています。勉強に疲れたら、下に降りて行き、本屋さんやゲーム、ショッピングセンターに行き、戻ってきて勉強するというような居心地の良い場所を作れたらと思います。子どもたちの行きたいところは、大人も行きたいということなので、そのようなインフラがあったら良いと思っています。一方で、友達と一緒にワイワイできる子どもたちばかりではなく、そのような場で参加できず、溢れてしまい、1人になってしまうという子どももいると思います。そのような子どもは、パソコンの方に逃げていくという印象があり、サービスの中で凄くそれを感じるのが、クラスターという名前のバーチャル空間に入れる、無料で自分のアバターやキャラクターを作り、他の人たちとやり取りをするサービスがあるのですが、演劇の公演や文化祭のようなことが、始まっています。1人でできて、そこに入ったら、同じように仲間と一緒に演劇やお芝居をします。声優さんに憧れている子がそのような場に入り、演劇をしています。

公民館で実際に会ってワイワイするということについても、すごくやりたい子どもたちはいますが、そういったところに参加できない子どもたちも、別の空間、バーチャル空間だと安心していけるということがあり、まさに多様性であると感じています。凄く重要なこととして、そのような空間に行くためには、スマホだと難しく、パソコンが欲しいとなってきますが、古くて動かないということや、バーチャル空間に行くようなステップがないということになると、やはりやらなくなってしまいます。そのような場合に、公民館の中にパソコンのあるスペースを開放してみたり、ここにはパソコンがあるということだけ伝えておくと、気になっている子どもたちがパソコンのある場所に踏み出してくれるのではないかと思います。その候補はもちろん大切ですが、そのような場も作れたらと感じました。

井澤委員長

皆さんにそれぞれお話を聞かさせていただき、社会教育活動は人づくり、繋がりづくり、地域づくりということで、機会を作る、あるいは場を作る、そのようなところに仕掛けていける人材をまず作っていくことが1つのキーワードになっていくと思いました。場をつくるにしても、どのような場が良いのかを議論したいです。それは私たち大人だけではなく、子どもたちも含めて一緒に考えていくということが、お互いに成長することにもなり、このような場になっていくと思っています。

今日、いろいろご議論いただいたのですが、やはり深めようと思うと、なかなか発言の機会も少なくなりますので、次回はグループワークの形を取ってみてはどうかということで、いくつかの焦点を絞り、今日お話が出たものを事務局の方で整理していただき、3つか4つほどのグループに分けたいと思いますが、いかがでしょうか。当然、どのグループに参加して議論するかについては、また改めて皆さんに共有したいと思います。ご希望のグループでご議論していただくという形を取れたらと思っています。

辻本委員

すみません、どなたか高齢者が、社会参加しにくいということをおっしゃっていました。三重県の総会の時に、なぜ高齢者が社会参加しにくいのかを少し話しました。仲間がおらず、1人ではなかなか参加しづらいと言う人が多いです。それは都心部も山間部も同じで、興味があり、自分がやりたいという内容の活動は少ないため、バラエティがあった方が良いという話が出ました。それは都心部よりも山間部の方が多かったです。「様々なことが整理されて自分が納得したら、参加しますか」と聞いたところ、80パーセント以上の人に参加しますって言っています。そのようなデータを取りましたので、また紹介させていただきたいと思います。

井澤委員長

グループワークという形で、今回は小グループの中で議論をしていただいて、それを皆さんで共有していただくという形を取れたらと思います。いかがですか。

では、できるだけたくさんの方に発言いただきたいことと、より具体的にまとめていけたらいうことで、今回はグループワークを行いたいと思います。

最後に、その他ということで、事務局の方からお願いいたします。

事務局

例年開催されております東海北陸の社会教育研究大会について、ご連絡をさせていただきます。令和7年度の東海北陸社会教育研究大会は、令和7年10月3日金曜日、1日の開催になります。岐阜県の瑞穂市で開催されます。現時点では開催要項が届いておりませんので、詳細が、県から届きましたら、社会教育委員様宛てに、メールでご案内させていただきますので、参加ご希望がございましたら、生涯学習課へお知らせいただきますようお願いいたします。なお、予算上は3名までとなっており、3名以上のご希望になりましたら、ご相談させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

また、来年度の開催が三重県津市で行われる予定と決定しております。日時は、令和8年10月8日木曜日と9日金曜日の2日間で、三重県の総合文化センターで行われると伺っております。先日、三重県の社会教育委員の連絡協議会、その大会に向けて実行委員会を組織しまして、その実行委員として各市町の社会教育員1名を選出してほしいと依頼が来ております。皆様いかがでしょうか。県の役員をしていらっしゃる長島委員様は県として、選出されているということもございますし、報告の方をさせていただければということで、お話しさせていただきました。

長島委員

再来年に向けて、このような議論がたくさんできるようになったら良いと考えています。その中で、子どもたちや大人が、参考になるような事例がたくさん出てきますので、それが活用できたらと思っています。ぜひ参加していただきたいです。また、実行委員会を津市から出していただきたいという話ですが、委員長が出ていただくということが1番良いと思っています。井澤さんのご意見がたくさん聞きたいので、ぜひお願いしたいです。

事務局

ありがとうございます。では、事務局と井澤委員長さんで確認しながら最終決定をさせていただきますと思います。また、各市町の教育委員会の事務局から上田を選任させていただき報告をさせていただきますと思いますので、よろしくをお願いいたします。以上になります。

井澤委員長

ありがとうございます。これにて会議を終了とさせていただきます。皆さんの方で次回のグループワークに向けての意見の方がありましたらよろしくお願いいたします。ありがとうございました。